

辰の暖簾

中村 勇吉

昭和卅九年甲辰、大躍進の新春を其の名も辰巳会々員が恙なく迎えました事は誠に御同慶の至りに存じます。

昭和卅七年四月二日、山紫水明、京洛東山の何有荘（大宮庫吉氏邸）で、辰巳会大会が、参加者実に三百五十余名の多数で盛大に催された事は、会員諸兄の未だ記憶新たな事と信じます。会は厳肅なる物故者の慰



薄荷のラベル 上部に辰のマークがある

の中に鮮かに白地で辰と染め抜いた本当に懐しい亦湯仰の暖簾が懸って居ました。其の暖簾を潜って現れたのは深水の絵を思わせる艶麗な振袖姿の京舞子数名で、囃子に乗って「京の四季」

を舞い始めたのであります。其の刹那満場の会員は皆我れを忘れたかの様に破れんばかりの拍手を暫くの間送り続けられました。其の瞬間私の脳裡に閃いたのは其の熱烈な拍手は京舞子のあでやかな舞姿によりも寧ろあの辰の暖簾を眼にして心の奥底で万感入り乱れ一気に爆発したものに相違無いとの直感でありました。

当日会員に配布された「舞台の展望について」の一部に此の暖簾の由来が次の様に紹介されて居りました。

「明治卅六年の鈴木本家は栄町四丁目岡部証券KK北側側に在り神戸では珍らしく格子造りの商家らしい気品のある構えでありました。

本日舞台に掲げました暖簾は恒に内玄関に懸って居り、鈴木商店を象徴するが如く春夏秋冬雨に晒されて来ました。多数の人材は各地より此の暖簾を慕って寄り集り大店舗となり且つ世界的な屋台骨を築くに至りました。是れを見ても只の暖簾では無く今日迄大切に家宝として鈴木家に蔵されて来たのであります。見様に依っては正に旗印に匹敵するものと思われま

す。此の度大会の爲め鈴木家の御厚意に依り五十数年振りにこの山紫水明の京都の地で春風に靡びかせた事は何より嬉しく思います」
扱て光陰矢の如し、昭和二年天下の鈴木商店の終戦宣告以来、早や卅七年を数える事になりました。爾来辰マークは暖簾と共に鈴木家の蔵の奥深く秘蔵されて其の姿を全く消して居たかに思えますが、さにあらずで鈴木商店発足後明治卅六年以来より現在も尚内地は申すに及ばず世界市場で活躍を続けて居ります。それは吾社の薄荷脳、薄荷油のラベルの上位に鎮座ましまして居るのであります。

私が昭和卅七年二月末、羽田を出発し吾社の薄荷、其の他取扱商品の欧米市場調査と取引先との交歓を兼ねて米国、英国、仏国、伊太利、瑞西、独乙等を夫々訪問の上三月末帰朝致しました。

前記諸国で何よりも私の胸を打たれた事は各取引先の新旧を問わず、行く先々で前述の旗印辰マークが健在で不滅のマークとして活躍して居る嬉しい有様を現実に此の眼で見えて来た事でありました。

斯様にして私の帰朝後数日ならずして然も旅行中の印象が生々しく脳

有毒食品を追放しましょう

松本 褒

裡に残って居る矢先に辰巳会大会に参加して、其の舞台で最も深い印象を得て帰ったが忘ることの出来ぬ斯の旗印辰マークの暖簾の現物をマザマザ眼に入れられた一瞬、電気に打たれた様に私の胸が一倍感激した事を御想像下さい。

あの印象深い且郷愁を覚えさせる木綿の暖簾は仮令今後鈴木家の蔵奥深く御旗印の護りとして鎮座ましますとも前述の通り辰マークは内地外地を問わず日の没するを知らず永く活躍を続ける事と信じますと同時に僕達は終始一層の発展をこの暖簾に賭けても先輩の業績に酬ゆる覚悟です。

御参考までに当社の沿革を簡単に申し上げますと、往年鈴木商店が其の部門として金子直吉翁が直接御指導のもとに、明治廿年以來精製樟腦、また明治廿六年以來、薄荷脳、薄荷油の製造販売を営んで居りましたが、昭和二年六月に翁の御指示に依り前記部門の業務一切を継承、故楠瀬正一氏初代代表者と成られ会社設立、爾来今日に至って居ります。それで吾社の事業は金子翁の御遺業ズバリと申せましよう。尚太陽鋳工機の子会社故現在取締役が高畑誠一氏と橋本隆正氏とを亦監査役に土居通彦氏の御就任を得て居ります。

(鈴木薄荷株式会社取締役社長)

私共が毎日食べて居る食品の中には色々有毒物が多量に混入せられて居ることを御存知ですか。味噌醬油から漬物や菓子などにも、酷い毒物が添加せられて居ます。

一、味噌や醬油は普通三年位かかって造られるものですが、此の頃は一週間で染に出来ます。そして有毒化学薬品で着色、着香、着光までしてあります。油断は出来ません。信州あたりでやはり二三年かかって造った本物の味噌醬油を買うか、さもなくば自宅で製造するのが一番安心です。

二、ソースやマヨネーズには濃化剤と云ってドロリとさせる毒薬が入っております。

三、佃煮やジャムパンにはズルチンと言う発癌材料が入って居ります。甘いのはズルチンの為めです。

四、赤色の食物は多くは危険です。梅干、シウウガ、タラコ、エビ

などの赤いのが、菓子やカマボコ赤いのも有毒染料ローダミンを使用して居るのです。

五、菓子類のアンは大抵は毒物を入れてサラシアンを造るのです。菓子を食べるのをやめましょう。上等の菓子では白砂糖を使いますが、この白砂糖が人体の大敵で、体内の骨や細胞をドンドン解かして体外に出て行き人体を弱体化します。恐るべき毒物です。

六、オレンジジュースは皆ニセ物です。化学薬品を集めて作ったものです。本物のミカンが入って居りません。

七、グリーンピースと言って美事に青色に染めた豆があります。ビールのつまみものに出て来ますが、あれは有毒染料マラカイトグリンの着色で有ります。勿論肝臓の大敵であります。

八、ソーセージは、昔は豚や羊の

腸に詰めたものですが、今日は合成樹脂で作ってあり、有毒染料で色付してあります。食べないことが肝心です。

九、塩せんべいとおかきは、昔に醬油をぬって焼いたものですが、今日ではそんな手数のかかることはして居ません。大量生産時代ですから大量に作った切り餅に、有毒染料クリソイデンを塗って、一度に機械にかけて焼くのです。美事な色に出来上ります。勿論大毒物です。

十、沢庵が綺麗な黄色に着色してありますが、皆オーラミンと言う有毒色素で着色してあるのです。肝臓を害しますから用心して下さい。昔はウコンで染めたものです。伊勢あたりで出来たものですが今では違つた有毒物です。

十一、奈良漬の美しい鉛色はビスマークブラウンと言う有毒色素で着色してあります。

十二、黒豆は大休人間に非常に栄養になるものですが、この頃は大豆を黒く染めたゴマカシものが市場に出て居ります。有毒タール染料ですから危険です。(つづぐ)

この拙文は昔帝國染料株式会社経営時代に体得した研究から感じたことを只今叫び続けておりますので御参考に供します。(漢方順天店)